

社会にインパクトある研究

G. 社会の枢要に資する大学



TOHOKU
UNIVERSITY

G2 科学の社会的役割



社会と人ともに責任ある科学 のあるべき姿

プロジェクト概要

1 社会的課題

知識基盤社会への転換のために国立大学が果たすべき使命は重い。しかし、私的企業への貢献と転換を目的とし、競争原理の導入という手法を用いる現在の大学改革は大学を疲弊させている。

2 解決の方向

大学本来の社会的役割は、研究を通じて自然や社会についての体系的知識を生み出し、それを教育することで、教養豊かな自律した人間を育てることにある。この点で大学は長期的にみて社会に貢献する。本来、大学改革が目指すべきなのは、大学がこの社会的役割を果たすことができるように、研究・教育体制を再構築することである。そこで、公益性の高い研究・教育機関としての大学のあるべき姿を明らかにする。

3 東北大学の強み

研究第一主義，門戸開放，実学尊重の理念の下で実践されてきた東北大学の研究の歴史は，本研究の資源となる。

4 プロジェクトの効果

本プロジェクト研究の結果，説得力ある提言によって，知的基盤社会への転換が適切に実施できる。

5 組織体制

プロジェクト理念

本プロジェクトは、大学の機能強化に向けて制度改革を進めるべき方針を明らかにし、学内の議論を興すことで組織としての大学を深化させ、社会の知識基盤を強固にすることを目的とする。

国際的取り組みが必要な社会問題（気候変動・エネルギー問題・新型コロナウイルスの防疫・異文化間コンフリクトなど）や様々な国内問題（少子高齢化・長期的経済停滞・経済格差・社会的弱者差別など）への対策をたて、解決を図るためには、自然科学・人文社会科学上の知見の利用は不可欠であり、学術的知識生産の場である大学への社会からの期待は大きい。その期待に応えるために必要となる大学組織や研究者の行動規範のあり方を明らかにし、大学における研究・教育の体制を再構築する方途を見つけることを本プロジェクトは目指す。そのためには、大学がおかれている外的環境と大学組織の内的構造に注目し、それぞれの問題を解決しなければならない。

国立大学の外的環境を見てみると、1990年以降、継続的に行なわれている大学改革は、この社会からの期待に応え、社会的意義の高い学術的知識をより効率的に生産できるように、研究体制の再構築を進めることを目的の一部とするものの、かえって大学の弱体化を招いてしまった。それは、現在の大学改革が大学経営に競争原理を導入させ、運営費交付金を継続的に削減し、競争的資金を通じて研究者間、学問間での競争を激化させるという手法をとったためであり、これにより研究・教育のために使われるべき資金・人員・時間のいずれの側面においても、大学が疲弊するに至っているのである。

プロジェクト理念

大学組織の内的構造の問題として、個別学問分野の研究が深化し、専門化が進展するとともに、体系的知識や教養の重要性が見失われるようになったことがある。ただ、現在のように社会的問題が複雑化し、その解決のめどをつけるためには多様な専門的知識の理解を要するようになると、大学が断片的な専門的知識を研究・教育を通じて社会に提供するだけでは、**長期的視野にたって社会的問題の解決に貢献するという大学本来の役割を果たすことができない**。専門的であるが、断片的になってしまった知識を、研究を通じて統合し、それを教育に生かして人間形成を行なう教養の理念を正しく再評価することが不可欠である。

本プロジェクトでは、公共性の高い体系知識を生み出し、自律した人間を育てる学術的知識生産教育システムとしての大学の理想像を明示するとともに、大学が歴史的に形成され、日本に移入され、定着してきた経緯を振り返る。それにより、現在までの大学改革の問題点を明らかにした上で、大学および研究者が本来的役割を果たすことが可能となるような制度を確立するための方針を見つけ出す。そうすることで、適切な大学改革のあり方を説得力をもって提言する。

以降，現時点では未公開

